

2020 年度第 4 回理事会

〈第 1 号議案〉

2020 年度事業報告

社会福祉法人どんぐり福祉会

2020（令和2）年度事業報告（別紙資料参照）

社会福祉法人どんぐり福祉会

法人本部の活動

どんぐり福祉会にとって悲願の、東大阪での公費助成による認可保育所の建設は、つるばみ保育園の開園をもって実現の運びとなった。しかしその初年度は、誰もが経験したことのない新型コロナウイルスの感染拡大によって始まり、更なるパンデミックによって閉じられた。

1, コロナ対応

2020年4月、緊急事態宣言下における法人としてのスタンスを明確にし、職員を励ます意味を込めて黒澤評議員の協力を基に声明（保育施設の休業・保育者のコロナ感染検査・保育施設の利用を自粛する保護者への経済的支援・保育者の給与保障・保育施設の利用自粛中の家庭支援）を発表した。また、全国民間保育園経営研究懇話会の役員（社会福祉法人 紅葉会）からの情報提供を受け、感染症危機管理マニュアルを作成、新型コロナウイルス感染にかかわる対応の基本を整理した。2020年度当初は、保護者に保育施設の利用の自粛協力要請を行い、自粛中の家庭支援（声掛け、電話連絡等）をした。また、各園の実情を踏まえながら、全ての保育行事をイレギュラーな形で行い、保護者からの様々な意見もききながら、子どもたちの体験を狭めない方向で、保育園運営を行った。

職員には、コロナ対策職務免除日を10日付与（有給・管理職含め全職員）した。正規職員の感染者は、2021年5月1日現在、延べ人数で3名、濃厚接触者5名であった。

休園状況は、どんぐり保育園2020年12月9日（実習生感染につき）つるばみ保育園2021年3月23日（正規職員感染等につき）、2020年度2日間であった。

コロナ禍の中で、大きな混乱もなく無事今年度の活動が終わり、管理職を筆頭に全職員が職務を全うできたことに法人として感謝している。

また、ZOOMを使ったリモート会議、リモート研修の経験が少しずつ蓄積され、必ずしも1カ所に集まらなくても、意思疎通が可能になりつつある。

2, 法人規模の拡大にふさわしい組織の発展

2021年にむけた新規職員採用は、新卒1名及び既卒在職4名。

2020年度事業計画に、向こう3年で、法人規模の拡大にふさわしい組織に発展させるための体制の構築とあり、2020年度は1年目にあたる。方向性は、民主的な組織への更なる発展である。

(1) 組織体制の整備(ガラス張りの民主的な組織、効率的な意思決定のシステムを整備する。)

正規職員（含む管理職・嘱託）に法人アンケートを行い、法人と懇談希望者及び管理職（延べ人数17名）について懇談を行なった。

状来の懸案だった9時間拘束問題に着手し、就業規則通りの拘束時間に戻すことに組合との3回に及ぶ交渉（コロナの為最小限の懇談になる）で、職員の事務時間の確保、効率的な事務処理のための書式等の整備などの話し合いが行われ、9時間拘束を実施した。

これにともなう職員の事務時間の確保の実態調査結果は以下の通り

どんぐり保育園	月平均 9.8 時間
久宝寺保育園	月平均 2.2 時間
どんぐりのおうち	月平均 9.7 時間
つるばみ保育園	月平均 14.5 時間

(2) 事務局及び各機能別会議の効率的かつ実効的活用の模索、及び管理職研修

毎月定例管理職会議を行い、各園状況の報告やコロナ禍、各種規定の再度のすり合わせ、法改定による各種規定の更新の方向性を決定した。組織やシステムづくり並びに議案・議事録づくり、行政手続等をできるだけ事務局に担ってもらうことで、実質的な保育事業の領域に意識と力を割く時間を増やすことができた。事務局も、そのような意識を持って法人運営の重責を担ってきた。

これとは別に9月から毎月管理職研修を行い、法人理念に基づく財務と組織、発達保障論と保育課程、どんぐりの歴史と到達、安全コード等の体系的なとらえ方を整理してきた。現在「前理事長の東大阪における業績と受け継ぐべきもの」のテーマに入っている。

(3) 法人内人事交流等

コロナ禍の中で保育交流（期間を定めた法人内プチ留学）は実施されなかったが、2000年度は久宝寺から東大阪へ3名、東大阪から久宝寺へ1名、2001年度は久宝寺から東大阪へ1名、市をまたぐ転勤が実現した。東大阪市内の転勤は、一体的運営を目指して普通のこととしていきたい。八尾市の家賃補助制度の市内在住規定が、自由な転勤を阻むネックとなっている。

東大阪の給食担当者会議は三園（どんぐり保育園・どんぐりのおうち・つるばみ保育園）で毎月行い、どんぐりの理念に基づく「食」の基本的な考え方について理解を深めつつ実務的な打ち合わせを行っている。

3. 子どもの最善の利益を真に保障する保育事業をめざす

- ① 子どもたちに笑顔を向け続けること
- ② 知識を覚え込ませることではなく、自らを信じて取り組むことができる力が子どもからあふれ出てくる環境をつくること
- ③ 何より子どもの声に耳を傾け、子ども一人一人に寄り添うこと

上記を踏まえ保育の質の向上させる努力として、2019年度に問題提起がなされた職場のハラ

スメントについての規定を整備し、理事長研修を行った。又、就業規則、定款細則、公印管理規定等の改定を行った。

また、黒澤評議員の協力を得て、つるばみ保育園とどんぐり保育園（どんぐりのおうちからの参加も含む）で、保育カンファレンスが続けられている。

利用者満足度調査としての保護者アンケートを、はじめて法人横断で行った。

保護者アンケートの結果（5段階評価に換算）

どんぐり保育園 回収率 78%

平均値 4.5 最高値 4.77（説明責任/おたより）最低値 4.23（日常保育/遊びと生活）

久宝寺保育園 回収率 51%

平均値 4.6 最高値 4.82（日常保育/遊びと生活）最低値 4.24（理念方針）

どんぐりのおうち 回収率 88%

平均値 4.8 最高値 4.93（日常保育/食の質量・遊びと生活・安心安全/体調対応）

最低値 4.53（説明責任/懇談）

つるばみ保育園 回収率 83%

平均値 4.0 最高値 4.61（日常保育/遊びと生活）最低値 3.42（説明責任/懇談）

職員の賃金改善に充てるとして支弁された「処遇改善等加算Ⅰ」「処遇改善等加算Ⅱ」の配分については、労組と話し合っ、2019年度と2020年度の2年間で延べ80万円になるよう、職種や経験を問わず正規職員間で平等な配分を行うという方針を踏襲した。非常勤は時給又は一時金で上乘せ支給した。

人材確保のための新たな補助金（保育士宿舍借上支援・保育体制強化・保育補助者雇上げ強化）も、市ごとに運用は違うが最大限活用している。

4. 子どもの権利や成長発達を大切に考える人々と広く連携し、公的保育制度を守り育てる。

保育を担う社会的責任を有する者として、よく学び、現場の実情を踏まえた意見を述べ、公的保育制度がより良くなるよう守り育てる責務が、全ての法人役職員にある。

2020年4月30日に結成された権利としての社会福祉を守る業種横断の全国組織「一般社団法人社会福祉経営全国会議」に専務理事乾みや子が理事として参画。学習会等に法人幹部が積極的に参加している。

児童福祉法2条3項・24条1項等の公的保育制度の重要性は、障害、高齢の分野での事態の進行を学ぶ中でより明確になっている。最低基準の抜本的改善に向けて、全国的な分野横断の動きが作られつつある。

5. つるばみ保育園の初年度

近隣対応に幾つかの課題を残したが、おおむね成功裏に竣工を迎え、4月から開所することが

できた。北東角の建物付の土地は、2020年3月31日付で購入完了。職員の自転車置き場となっている。国庫補助の単価が上がって、福祉医療機構の融資限度額に影響したため、2020年度中に550万円の繰り上げ償還が生じた。繰り上げ償還と近隣対応で外壁の色の塗替え工事、職員の自転車置き場の工事などで費用が嵩み近畿労銀で1000万円の借入をした。また、様々な備品等の購入や賞与の支給等により短期的にどんぐり保育園より400万円、どんぐりのおうちより300万円を借入し（年度内借入金はともに2020年度末までに完済）、久宝寺保育園より100万円の処遇改善費を拠点区分間移動（処遇改善費の支弁要件を満たすため）してもらった。3歳児に誤食事故が起り園児はアナフィラキシー症状に陥る、すぐさま投薬し病院へ行き事なきを得る。園アレルギー対応のマニュアル化についてはなお審議中。以上のこと及び財務の精査、保護者アンケート等から2021年4月より法人本部をつるばみ保育園に置き、つるばみ保育園は本部の管理下となる。

6. 法人財政の俯瞰

つるばみ保育園の開設および久宝寺保育園の規模拡大によって、法人全体の事業活動収入は6億3千万円となり、昨年度比23.5%の増である。純資産が7億9千万円、うち固定負債は1億9千万円。積立資産は2千6百万円までこぎつけたが、減価償却累計額2億9千4百万円の一割弱に過ぎない。

当期資金収支差額合計は、-667万円で期末支払資金残高を1億700万円に減らしたが、どんぐり、おうち、つるばみで予定よりは好決算となっている。以下保育事業の指標を提示する。

施設別 經常活動の 収支の特徴	(単位千円)	保育事業収入	職員数	人件費	事業費	事務費	事業支出計
	どんぐり	142,560	16+2	112,451	14,770	7,269	134,679
	100%	1+5+6	78.80	10.36	5.10	94.47	
つるばみ	107,859	10+1	74,529	16,569	9,460	100,640	
	100%	4+4+2	69.10	15.36	8.77	93.31	
久宝寺	295,687	32+1	237,003	31,265	16,368	285,755	
	100%	19+9+6	80.15	10.57	5.54	96.64	
おうち	64,205	5+2	46,043	5,600	6,085	57,727	
	100%	2+2+5	71.71	8.72	9.48	89.91	
つみき	6,780	0	4,297	1,119	1,364	6,780	
	100%	0+0+9	63.38	16.50	20.12	100	
合計	615,292	63+6	474,832	474,832	474,832	474,832	
	100%		77.17	11.10	6.68	95.18	

正規+嘱託

30時間以上+20時間以上+20時間未満

特別保育事業

	延長保育	一時預かり	子育て支援	体調不良児支援	宿舍借り上げ
どんぐり	一日平均 1.4人	105件	園庭開放・育児相談月2 (内1はつみきと連携) 地域交流年(コロナのため実施出来ず)	—	3人
久宝寺	一日平均 5人	1188件	園庭開放毎土・地域交流月0~1 体験保育年0(3日連続) 育児講座年0	年201件	7人
おうち	19時まで	94件	おはなしひろば年12回 外部の参加者なし	—	0人
つるばみ	一日平均 1.5人	—	園庭開放(1歳児以上) 園庭開放ママカフェ(0歳児)		2人

研修

	府社協 府・市	私立保育会	保育運動センター (合研含む)	同友会 (経営懇含む)	その他	法人研修は、コロナ の為出来なかった。
どんぐり	2件 2人	3件 4人	34件 34人	3件 6人	1件 1人	
久宝寺	13件 40人	1件 4人	18件 43人	2件 5人	3件 9人	
おうち	1件 1人	1件 1人	22件 22人	4件 4人	6件 29人	
つるばみ	3件 3人	3件 6人	7件 8人	4件 7人	3件 24人	

つどいの広場つみきの運営

	開設日数	利用組数	利用児数	日平均	相談件数
24年度	234日	2159組	2595人	9.2組 11人	299件
25年度	237日	2138組	2523人	9.0組 11人	291件
26年度	234日	3116組	3700人	13組 16人	357件
27年度	230日	2205組	2772人	9.9組 12人	376件
28年度	231日	2496組	3227人	10.8組 14人	375件
29年度	234日	2812組	4069人	12.0組 17人	345件
30年度	233日	2328組	3089人	10.0組 13人	387件
元年度	207日	1905組	2425人	9.2組 12人	286件
2年度	195日	909組	1040人	4.7組 5人	257件

コロナ禍の中、6月～3月までの10か月間、可能な限り開設し、親子を受け入れてきた。

例年の事業はおこなえず、利用者数も半減したが、補助金は保障され、コロナ対応の備品購入もできた。

別紙資料

- ① 専務理事・各拠点活動日程報告 ② 保護者アンケート

どんぐり保育園の運営と経営

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
認可定員	3	10	11	12	12	12	60
4月当初 ～3月末	9	10	10→12	13 要配1	13 要配1	14 要配1	69→71 要配3

<1. 体制>

正規17名（法人：乾・育休1人を含む）、嘱託2名、非常勤6名の体制でスタートした。新園の開設に伴い新規採用職員（大卒・短大卒4人、経験者2人）が増加したことや法人内異動も2人あり、昨年度の体制からは大きく変化した。園長も未経験の新人となり、園運営に支障が出ないように注意を払ってきた。

しかし、今年は4月当初から新型コロナの「緊急事態宣言」が発令されたことにより、新入園の子ども達を含めて登園する子ども達の人数が少ない中でのスタートとなり、職員体制にも余裕が生まれたこともあった。当初は、非常勤職員を含めて年休により休んでもらったりしていたが、後から法人独自の「コロナ職免」が10日間付与されることとなった。

新期採用職員の増加等があったものの、平均経験年数12年以上は確保でき、処遇改善加算は引き続き19%の加算を確保できた。

昨年に引き続き、人材確保事業の保育補助者雇上げ強化事業を活用して、実習生(2名)をアルバイトとして来てもらう予定であったが、コロナの影響により7月以降の活用となった。

また、保育体制強化事業を利用して、「グリーンパスタ」さんに野菜栽培の指導・園庭の植栽手入れ、木工芸「山清」さんに木製品のメンテナンスを依頼してきたが、「人員体制」の事情によりこの補助金は、9月以降しかつかなかった。

子育て支援員の実習や実習生の受入れについては、例年通りの受け入をしてきたが、実習生によるコロナ感染が発生し、その対応に苦慮した。

<2. 子どもの安全と危機管理>

今年の特徴はなんと言っても「コロナ感染」とその対策であった。4月当初から、登園自粛の要請があり、多くの保護者もそれに協力してくれた。しかし、園の行事については、そのほとんどが「延期」や「中止」を余儀なくされ、保護者会の行事に至っても「延期」や「中止」の措置をしてもらうしかなかった。そんな中であっても、多くの保育園が中止していた夏のプールについては、感染予防に注意を払いながら、クラスごとに時間帯を分け毎日入れる工夫をし、保護者による保育参加も実施した。また、お泊まり保育も生駒山麓公園にて実施し、散歩についても可能な限り実施してきた。

宣言が明けた秋には、例年どおり八戸ノ里公園において運動会も実施したが、これも「乳児」と「幼児」に分けて2部制で実施した。絵画展については、見学に来る保護者が密集しないように、細かくクラスごとの時間帯を設定し実施した。生活発表会については、保護者の見学を5歳児の保護者のみに限定し、他の保護者は、DVDによる鑑賞にもらった。卒園式も5歳児とその保護者のみの参加とし、「三密」を避け感染予防に注意を払いながらの実施とした。

野菜栽培の担当者は、子どもとともに生長や収穫の喜びを分かち合い、夏野菜ばかりでなく冬から春へと頑張りを続けている。

<3. 職員の資質向上のために>

自主研修には取り組めなかったが、昨年に引き続き副園長を中心に乳児会議・幼児会議を持ち、行事は実行委員会が進めた。ピアレッスンについては、コロナ感染の影響により、ほとんど実施できなかった。

<4. 保護者とともに>

保護者会の活動も、可能な限り支援してきた。役員会の開催の保障はもちろん、今年は「夏まつり」と「冬まつり」を合わせた「秋まつり」の実施に協力した。（これもコロナ感染に留意しながら、乳児・幼児を分けて実施してもらった。）

<5. 地域・他施設とともに>

学習支援「まなびろばこころ」もコロナ感染の影響により、自粛期間も多くあったが、宣言解除を受けて可能な限り実施してきた。口コミで希望者がじわじわと増えており、どんぐりの卒園児も、入会してきている。又、他施設との連携・交流はコロナ禍の為出来なかった。

<6. 施設設備改善と中期計画の到達点>

- ・コロナ補助金を活用し、「オゾン発生機」(2台)や「空気清浄機」(4台)を購入し、保育室各部屋に設置した。
- ・コロナ補助金を活用し、玄関の網戸を設置した。また、3Fホールに備え付けのスクリーンを設置した。

久宝寺保育園の運営と経営

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
認可定員	18	30	34	36	36	36	190
4月当初	18	30 (要配1)	34 (要配1)	36 (重1)(障1)	36	34 (重1)(障3)	188 (重3)(障3)
3月末	18	30	34 (要配1)	36 (重1)(障1)	36	34 (重1)(障2)	188 (重3)(障3)

<1. 体制>

年度途中で調理非常勤職員1名が退職、産休・育休が正規1名、非常勤2名発生したが、代替非常勤職員で補うことができた。3月末での正規退職者が2名、異動者が1名、であった。乳児主任、幼児主任2名をフリー保育士として配置し、後半は正規職員の産休代替と乳児主任を兼務する。5歳児の4月からの分園生活は、車いすでの移動が必要な子どもを含め生活の流れとして、日常的にエレベーターの使用をしながらスムーズに始めることができた。2020年度は正規職員は31名、嘱託1名、非正規34名(常勤13名・パート19名・シルバー2名)合計66名の職員集団となった。

1学年をグループに分け、複数の担任でのグループ別保育が可能となり、単数になりがちな幼児クラスについても経験者との組み合わせができた上に、幼児主任のフォローもあり、クラス運営はスムーズだった。1歳児30名(10名3グループ)については担任の持ち上がりが必ずとはならないが、経験年数の高い職員を多く配置した構成にしたため、ダウン症児と難聴児を1つ離れた小さな部屋(ぶどうグループ)にダウン症児と難聴児を一緒にした。3グループながら環境や子ども同士の交流の工夫等することができた。

年度途中の退園(転居)1世帯があり、新入園児として1世帯を迎えた。年間を通して在籍数は188名であった。

<2. 子どもの安全と危機管理>

コロナ禍の中で八尾市の公立・私立の他園の情報を参考にしながら、行事をすすめた。日程の工夫をしながら、保護者との懇談会もグループごとに分かれ人数制限をした。計画していた救急時対応訓練(消防・不審者)については中止となったので、毎月の避難訓練や防災会議で確認や自主訓練をした。

<3. 職員の資質向上のために>

リモートでの研修が増え参加しやすくなり、自主研修にも誘い合って参加できた。新入職者と先輩とのパートナーでの面談も定期的にでき、新採職員からは「何でも聞きやすい」との感想だった。

<4. 保護者とともに>

0歳児から預かり今年度卒園を迎えた男児(肢体不自由児)が、卒園発表での太鼓と一緒に最後まで演奏することができ、保護者と一緒ここまでの確かな成長を認め合い共有することができた。子ども集団としては、譲り合いや、助け合う姿があり、職員間で卒園のあり方を論議することができた一つの大きな収穫となった。

<5. 地域・他施設とともに>

緊急事態宣言のため一時保育の利用者の受け入れができなかったり、地域交流や園庭開放、地域との交流についても、コロナの為に中止することがほとんどだった。又、他施設との連携・交流はコロナ禍の為に出来なかった。

<6. 施設設備改善と中期計画の到達点>

コロナ補助金(合計500万円)で、空気清浄機やサーキュレーター・クッカノン(オゾン発生器)4台等購入、天井へのシーリングファンを設置、エアコンの清掃費用等有効活用ができた。また、暑さ指数により外遊びや水遊びの制限が必要となり、室内で過ごすことが多かったが、エアコンとサーキュレーターを駆使して、廊下を遊ぶスペースにした。園庭、ホールがあること、分園へ遊びに行くことも楽しみの一つとなっている。

園庭の側溝をグレーチングの鉄板に変更したため、毎年職員で砂上げをしていた作業が軽減した。施設の修繕箇所としては初めて床暖房からの水漏れがあり、建設時の業者に依頼をした。

小規模保育園「どんぐりのおうち」の運営と経営

	0歳	1歳	2歳	計
認可定員	6	6	7	19
4月当初	6	7	5	18
7～8月	6	8	5	19
9～1月	6	8	4	18
2～3月	6	8	3	17

なり、かつてない人出不足に陥った。短時間パートの活躍や、本園からの応援もあり乗り切るが、フルタイムの人員確保に難航した。後半はようやく人員確保出来たが、クラス担任の変更や人の出入りが多い一年であった。途中退園の欠員も埋めることができなかった。その分一時預かりを積極的に受け入れたが、東大阪市の利用調整に制約があり本格入園につなげられなかった。

<2. 子どもの安全と危機管理>

入園式後すぐに緊急事態宣言が発出。エッセンシャルワーカー以外は自粛という経験した事のない事態となった。4、5月は少人数で感染症対策をしながらの保育を続ける。乳幼児はマスクも出来ず、接触や密を回避することは不可能であったが、職員の休憩室の使い方も含め、感染症対策を徹底することでコロナ陽性者ゼロを保つことができた。コロナ禍で保育園では当たり前だった日常が通用しなくなった。プールや運動会をどのようにしていけばいいか悩みながら手探りの一年であった。職員で知恵を絞り、運動会は各クラスで日程を変えて1、2歳の保育室で普段の運動遊びを観てもらって参観形式となった。これが意外にも保護者に好評で行事の在り方を考えるきっかけとなった。

ネグレクトによる要保護家庭と精神疾患の保護者支援を市役所との連携を密にとって行ってきた。特に精神疾患の保護者対応には神経をすり減らして対応してきた結果、職員にとっても新たな気づきや保護者の気持ちを深く考えるきっかけになった。それ以外にもコロナ禍で不安を抱えている家庭も多く、より丁寧に声かけをすることで法人アンケートでは高評価をもらうことができ満足度は5段階評価の4.8だった。

今年度より保育時間を9時～17時から8時半～16時半に変更した。活動も前倒しすることができた。

散歩ルートの危険性を行政に訴えても改善策がなかったが、公園前の道路をキッズゾーンに設定してもらうことができた。行政監査では、5年連続指摘事項なしとなった。

<3. 職員の資質向上のために>

今年新卒の職員1名を迎え、どんぐり保育園の保育カンファレンスに参加させてもらった。又、つるばみ保育園の絵画研修には複数の職員が参加。どちらも施設の枠を超えての学びと交流の機会が与えられ、良い刺激となった。リモート研修が定着した事で非常勤職員にも研修を受けてもらいやすくなり、保育の共通理解ができた。

<4. 保護者とともに>

一時預かりは後半から2歳児2名、0歳児1名受け入れをした。一時預かりからの本格入園のニーズがあっても2歳児で来年の入所申請をしていると二重申請になるため、定員に空きがあっても入園出来ない仕組みになっている。0歳児は4月からの入園を希望したが、1歳児で枠が少ない為入園出来ず。

<5. 地域・他施設とともに>

こども食堂「ぱくぱく」は2年目となるが、コロナ禍での中止や園庭でのお弁当の提供に変更。2019年度は179食提供のところ2020年度は41食に留まった。その中でも地域の方からの寄付やボランティアの申し出など問い合わせも多く、支持されるようになってきた。

コロナ禍でどんぐり保育園との2歳児交流は実現できなかった。誕生会での外部からの文化行事やバス遠足には参加出来なかったが餅つきを見せてもらうことができた。コロナ禍でリフレッシュの問い合わせも多数あったが、実施できない為つどいの広場つみきを紹介した。

おはなし広場は外部の参加者はゼロだった。赤ちゃん向けのイベントもコロナで実施できず。

又、小阪こども園との交流についても特に実現できなかった。東大阪市の小規模保育園の連絡会が発足され、研修会や小規模保育園の矛盾点、問題点を交流する場を持つことができた。又行政と直接話をする場が設けられたことは一歩前進である。

<6. 施設設備改善と中期計画の到達点>

この一年で東大阪市は企業主導型をどんどん増やし続け、質より量で待機児童の解消を進めている。

コロナで問い合わせや見学も少なく、今までとは違い把握しにくかった。

つるばみ保育園の事業報告

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
認可定員	6	8	10	12	12	12	60
4月	9	12	10	8	6	0	45
3月	10	12	12	8	10	0	52

<1. 体制>

新園の為、5歳児入園は受け入れず、4歳児までの保育を始める。コロナ禍の為、6月までは新たな入園がなく、7月から少しずつ園児が増えていった。4月は10名の正規職員と非常勤職員10名でスタートする。年度当初は合同クラスであった3、4歳児クラスを7月から年齢別のクラス配置にした。クラス数が5クラスになるので、新任職員と非常勤職員（10月から嘱託）の2人にやむを得ず負担を引き受けてもらった。負担を軽減するため、副園長が保育やクラス会議に入り、積極的な応援体制をとった。10月に正規職員の退職があったが、非常勤職員から1名嘱託職員になり、新たに非常勤職員を雇用する。さらに10月から学生の非常勤職員を雇用し、総勢21名の職員集団となる。

<2. 子どもの安全と危機管理>

4月の第一土曜日に職員全員で、ハンドブックと法人の安全コードを確認する。コロナ感染予防については、様々な通達や法人の指導を受けて進める。プール前には救急救命学習会や、保育園で起こりやすい事故についてのワークショップ研修を行う。毎月の避難訓練、事故報告、ヒヤリハットを活用し、事故防止にも努めてきた。しかし、10月に鎖骨骨折、1月にアレルギー児の誤食の重大事故が起こった。園庭あそびでの職員の立ち位置を見直し、再発防止策を職員全員で確認した。アレルギー事故は幸いにも命に別状はなかったが、重大な事故とし、本部の指導を受け、事故防止に努める。3月末には職員2名のコロナ感染者が出、その職員との濃厚接触者として2名の職員があげられた。身近で起こった事で、子どもの安全と保護者の就労を保障するために、コロナ感染防止の取り組みを見直し、周知徹底を行った。

<3. 職員の資質向上のために>

保護者43世帯中、貧困世帯が15件（生活保護世帯が4軒、市民税非課税世帯8軒、それ以外での副食費免世帯が3世帯）で保育園全体の34、9%にあたり、その内、要保護児童世帯が2件、子ども家庭センターからの通知を受けた世帯が2件、障害児加配対象が4人、在園発見のため加配がつかなかった子どもが2人、未検査が4人で、支援の必要な親子が多かった。生活やあそびや文化、年中行事等、経験の質量ともに豊かにすることを位置づけ、コロナ禍の中でも感染防止につとめ、子どもたちの活動を縮小しない様に努めてきた。

新園であるため、それぞれの職員の「あたりまえ」による保育の行き違いをなくし、法人内転勤者のベテラン保育士3名を主軸に、副園長が保育現場を統括し、保育を進めていった。子どもの姿から出発して立てた事業計画（運営計画）、年間保育計画、食育計画、月案、個別計画に元づいて活動を展開し、振り返ることを大切にされた。また、大阪青山大学の黒澤先生の力を借り、11月～3月、「保育カンファレンス」を行った。その中で、職員の同僚性を育み、主体的に問題を解決する職員集団作りに繋がった。全職員での学ぶ機会も意識的に取り組んだ。後期総括では子どもの主体性の育ちとリズム運動や描画活動の楽しさが共通認識となった。

事務の簡素化も必要だが、記録は、実践を振り返り、保育、食育の質を向上させる物ではあるが、職員にとっては負担感が残るものになっている。しかし、年度末のクラスだよりや後期総括や実践記録では、子どもの姿と職員の願いが見えるものになってきた。

<4. 保護者とともに>

コロナ禍の為、新しく出会った保護者との関係や保護者同士の関係作りの困難な中ではあった。写真入りのクラスだより、掲示物を作成し、子どもたちの園での姿を伝えてきた。生活発表会もWeb参観にし、保護者、親戚も見ることができたと喜んでもらった。しかし、保護者との行き違いが生じたこともあり、管理職と保護者の面談を実施した。その中で保育方針が伝える大切さと、コミュニケーションを望んでいることが分かった。保護者会準備会ができ、保護者同士少しずつ繋がり、2021年度の結成に向けて取り組んでいる。

<5. 地域・他施設とともに>

地域との繋がりでは、1歳児以上の園庭開放、0歳児のママカフェを3回実施した。参加児が2名のうち、一人はつるばみに入園し、もう一人は、どんぐり保育園の一時預かりに繋がっている。年度初めは保育園に密接したお家の方から子どもの声についての苦情が多かったが、引越してからは、苦情は上がっていない。畑づくりをしている地域の方から芋ほりや大根掘りにご招待いただき、本物との触れ合いも経験できている。園のフェンスに飾っている花は地域の方から喜ばれている。ホームページ、保育園だよりはまだ取り組んでいない。他拠点からの短期借入と繰入のおかげで職員の給与、一時金を支払うことができた。東大阪3園給食室会議では法人の理念の確認と食育活動の交流ができた。

<6. 施設設備改善と中期計画の到達点>

地域とのトラブル解決のための壁の塗り替え、保育園角地の取り壊しと駐輪場建設等、合わせて500万円の出費があったが、労金からの1000万円の借り入れで対応した。